

2023 エネルギー トランスフォーメーション 準備状況

調査対象となった

エネルギー関係者**76%**が、デジタル化に関する明確な戦略的計画を持ち、すでに実行しています。



エネルギー関係者の**51%**が、ITとOTが組織内で融合に向かってしていると見えています。

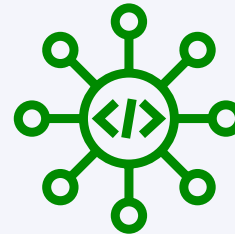


デジタル化は、スマートホームのエネルギー管理、EV充電、デマンドレスポンスの改善を可能にすることで、脱炭素化において重要な役割を果たしています。

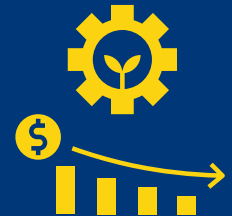


デジタル化に対する準備不足は、エネルギーサービス違反による**罰則、罰金、規制措置**につながる可能性があります。

エネルギー関係者の**64%**が、クラウドソースよりもオープンソースソフトウェア(OSS)を多く使用していると回答しています。



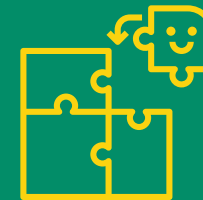
コスト削減と移行のスピードアップは、エネルギー分野におけるOSSの最も一般的なメリットです。



柔軟性は、エネルギー関係者にとってOSSの最も有望な特徴です。



パフォーマンス、サポート、セキュリティは、エネルギー分野におけるOSS導入の主な障壁です。

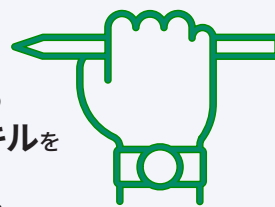


OSSは、分散型エネルギー資源(DER)の統合と管理を可能にし、アプリケーション開発を容易にすることで、**グリッドの複雑さを軽減**します。



エネルギー業界のコンセンサスは、OSSの採用を拡大する鍵です。

エネルギー関係者の**89%**が、デジタル化のニーズに対応するために必要なスキルを持っていることに同意、または強く同意しています。



半数の組織が、トレーニングプログラムはソフトウェアとOSSのスキルをカバーすべきであると考えています。

